

令和8年度 第2回 花川小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年7月30日（水） 14時00分から15時55分まで
- 2 開催場所 花川小学校 2F 会議室
- 3 出席委員 佐々木 豊、武田 弘秋、佐々木 聡、田中 朋子、高倉 絹子、
高倉 毅文、松下 悠里、北村 智子
- 4 欠席委員 木村 利幸
- 5 オブザーバー 保護者2名
- 6 学 校 二橋 久美子（校長）、中村 敦（教頭）、伊代田 和隆（教務主任）、
他教職員6名
中村 好明（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 中村 好明

9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、佐々木聡委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

テーマ 「『働き方改革』対策～コミュニティスクールでできること」

- ① 概要説明「あかるく・いきいき・みりよくある学校創造プラン」
- ② グループ協議「働きがいと働きやすさを感じる学校づくり」
- ③ 全体会

11 会議記録

司会の中村（教頭）から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

テーマ 「『働き方改革』対策～コミュニティスクールでできること」

- ① 概要説明「あかるく・いきいき・みりよくある学校創造プラン」

議長の指示により、中村（教頭）から、スライド等に基づき「あかるく・いきいき・みりよくある学校創造プラン」について説明があった。

- ② グループ協議

議長の指示により、委員・保護者・職員がそれぞれ入ったグループを3組作り、グループで話し合いを持ち、全体会で発表があった。

Aグループ（武田委員、田中委員、高倉絹子委員、保護者1名、教職員2名）

- ・ 地域と一緒にしないと先生方の負担が増える。連携していく関係が持続できると良いと

思う。(武田委員)

- ・勤務時間が短ければよいものではない。気持ちが満たされれば大変な仕事にも負担を感じない。小学校は学ぶことが楽しいと思わせる場なのに、効率を重視するのは子供を追い立てることになる。大切なのは心である。(教職員)
- ・子供もほどほどに、仕事もほどほどに、ワークライフバランスなのではないかと感じる。(保護者)
- ・全員が役員をやるという少人数の規模は良いと思う。また、関係者が子供みんなの顔を知っていることが良い。(高倉絹子委員)
- ・さくら連絡網の欠席連絡は楽になったと思うが、内容を選べない時に困る。うまく選べなければ、後で先生からの電話があれば言おうぐらいに思っている。修学旅行の時に入力を忘れてしまった。(田中委員)
- ・いろいろ変わっていくときはお互いにゆとりをもって対応すればよい。「どうしてやってくれないの」と責めるのではなく、お互い様という気持ちで接したい。(教職員)
- ・親もゆとりがなくなってしまう。(保護者)
- ・当日参加できないのならさくら連絡網にいれるくらいでよいと思う。学校はとにかく細かく「～しなければいけない」が多い。(教職員)
- ・良くも悪くも学校の昔からの流れだと感じる。先生たちがまじめになりすぎないか心配である。(保護者)
- ・ルールが厳しいのは、ルールが先生を守っているところもあるが、もう少しゆるくなればと思う。(田中委員)
- ・目の前の子供が一番大切。柔軟になれる場所が大切。そういうようにしていけると良いと思う。(教職員)
- ・みんなが「認められている」という思いを持てることが大切だと思う。保護者が学校からの電話に「え、なんだろう」となってしまうのも「認められている」という感覚がうすいからではないか。(教職員)
- ・子供の悪さを自分事として捉えてしまうこともあるが、後で他から聞くより電話の方がいい。(田中委員)
- ・気持ちを聴き合える時間、伝え合える時間を確保したい。(教職員)
- ・新年度初めにこのように話し合う時間が作れば、分かり合えるのではないと思う。(保護者)
- ・先生たちでそういう機会をつくれないか。(田中委員)
- ・昔はPTA懇談会というものがあり、人となりを知る機会はたくさんあった。(二橋(校長))
- ・イベントとして学校に集まる日に、体育館でお茶会などを開くのはどうだろう。先生たちと保護者との時間を作りたい。(田中委員)

Bグループ(佐々木総委員、松下委員、中村教頭、教職員3名)

- ・働き方改革の趣旨が分かってきた。先生たちのためだけではない。56の取り組みの達成を願っている。(佐々木総委員)
- ・子供の成長を一般市民にも広めていきたい。(佐々木総委員)

- ・ 国の改革は進んでいるとは言えない。児童は少ないが、先生も少なく大変ではないか。協力できることは協力していきたい。(松下委員)
- ・ さくら連絡網が役立っている。小規模校～大規模校でも活用していけるといい。(教職員)
- ・ 働き方改革が進んでいるのか、退勤時間が早くなっている。(教職員)
- ・ A I の活用が助けになっているので、研修を積んでいきたい。(教職員)
- ・ ミシンや調理の補助も手伝いたい。(佐々木総委員)
- ・ 本校は精選されていて、午後に余裕がある。(中村(教頭))
- ・ 勤務時間開始が8:00であるが、その前に仕事が始まっているので大変である。(中村(教頭))
- ・ 教育課程で、様々な見直しが必要なところもある。(中村(教頭))
- ・ 掲示物もA I で制作している。56項目は少しずつ達成できている。(教職員)

Cグループ(高倉毅文委員、北村委員、保護者1名、伊代田教諭、教職員1名)

- ・ 先生たちの働き方は昔と異なる。昔は先生の言うことは絶対だった。(高倉毅文委員)
- ・ 私は、学校の教員は土日休めているから、環境はいいと思う。(北村委員)
- ・ 私はほとんど残業なし。定時に帰れる。環境としては恵まれている。自分の子供ですら育てるのは大変なのに、仕事で関わっている先生方はもっと大変なのではないかと思う。働き改革は賛成である。(保護者)
- ・ 私がやっている仕事は、家に持ち帰ってやるものなので教員の働き方と似ている。(高倉毅文委員)
- ・ 国から働き改革といわれるが、その国から学校・児童に関係のない仕事が出てくる。(高倉毅文委員)
- ・ 花川小が好きである。過剰な要求が、とても少ない。(伊代田教諭)
- ・ 時間外勤務について、どうか。(高倉毅文委員)
- ・ 仕事とプライベートの区切りが難しい。小規模校であるため一人当たりの仕事量が多くなってしまう。(伊代田教諭)
- ・ 運動会の企画等で大変なこともあるが、子供の笑顔につながればうれしい。(教職員)
- ・ 報酬に関してはどう。(北村委員)
- ・ 仕事の線引きが難しいので、それを給料に反映するのも難しい。(二橋(校長))
- ・ 報告文書は多いのか。(高倉毅文委員)
- ・ 何か変えるときは、調査や報告が増える。(二橋(校長))
- ・ 働き改革に関して、地域として手伝えることは手伝いたい。でも、先生の仕事は減らすことはできない。一番は、先生に迷惑をかけないことである。(高倉毅文委員)
- ・ 報告書もA I に任せてもいいのではないかと。報告書一つあたりに報酬をつけるのもよいのではないかと。(北村委員)
- ・ 資料によってはA I で作ることもある。(伊代田教諭)
- ・ 保護者の影響によって、先生方が疲弊することがあるのか知りたいところもあったが、話を聞いているとないということが分かってよかった。保護者と先生の距離は近いと思う。(高倉毅文委員)

会長感想

出席者同士の気持ちが少しは分かったように思う。地元の方も前向きに協力していこうという姿勢が感じられたので、先生方も少しは肩の荷を下ろして欲しいと思う。

校長感想

私たちの精神的な負担感について討議していただいたことを大変ありがたく思う。大変な仕事であっても、その後にやりがいを感じられれば負担を感じないというのが、先生の仕事の特徴だと思う。委員の方の、先生の業務量は減らせないが、それでも何か協力できることを考えたいという意見は大変うれしかった。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和8年11月6日（金）午後2時から2階会議室で開催する旨の報告があった。